

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 中間評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・教師が「学力向上・心の教育・健康及び体づくり」の各評価項目について具体的な方策に取り組んだことにより、円滑な実践ができた。その成果として児童の成長と、保護者の理解につながった。 ・「ラーニングマウンテン」や「唐津の学びスタイル」に取り組んだことが教師の授業改善につながり、日々の教育活動において児童の意欲の向上につながった。 ・主体的に学び、学んだことを基に考え、考えたことを実行できる児童の育成を目指したことにより、共感的な人間関係の育成につながった。
2 学校教育目標	テーマ：地域とともに笑顔はじける切木小学校 学校教育目標 「自ら 気付き 考え 実行する」児童の育成 ～「出番、役割、関わり、承認」を通して～

3 本年度の重点目標	・学校と家庭、また、家庭と地域が密接に結びつく場としての学校の在り方を考え、子供と家庭、地域を豊かにする教育の推進 ・ICTを積極的に利用した「個別最適な学びの保障」と「家庭学習の質的向上」
------------	--

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○授業規律と学習の進め方の工夫による「わかる・できる・楽しい」授業づくり ○課題に対して試行錯誤しながら問題解決できる児童の育成	○「授業がよく分かる」と回答する児童や保護者の割合90%以上 ○課題解決に向け、友達と考えを出し合うことができた児童の割合80%以上	・「唐津の学びスタイル」に基き授業実践を行い、「自己決定の機会の充実・自己理解の促進・共感的な人間関係の育成」を目指す。 ・論理的思考を高めるためのプログラミングに関わる授業実践を行う。	A	・「授業が分かる」と回答した児童は98%で目標達成できた。「難しい問題もあきらめずに取り組んでいる」と回答した児童は98%で目標達成できたが、「自分の思いや考えが伝わるように話せた」と回答した児童は76%で達成できていない。今後、さらに自信をもって意見を伝えるために、論理的思考をより高めるような授業実践を行う。	A	・「授業が分かる」と回答した児童は98%で目標達成できた。「難しい問題もあきらめずに取り組んでいる」と回答した児童は98%で目標達成できたが、「自分の思いや考えが伝わるように話せた」と回答した児童は76%で達成できておらず、中間評価以降の向上が見られなかった。	A	・授業が分かる児童がほとんどで、難しい問題も諦めずに取り組めていことから、工夫した授業づくりをされていると感じた。自分の思いや考えが伝わるように話す力を伸ばせる取組を、今後も継続していただきたい。	・学力向上対策コーディネーター(濱井) ・研究主任(永石)
	●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳の授業で、「考えを深めたり、対話活動をしている」と回答する児童85%以上 ○「日頃、相手の気持ちを考えて、声を掛けたり助け合ったりしている」と回答する児童85%以上	・道徳科を中心に自己理解や他者理解を図り、学校の教育活動全体を通して、人権意識の向上に努める。 ・縦割り班活動や地域と連携した体験的な活動を通して「温かな心・言葉・行動」の充実を図る。	B	・「道徳の授業で、自分の考えを深めたり、友達と話し合ったりしている」と回答した児童は79%で、目標達成できなかった。また、「日頃、相手の気持ちを考えて、声を掛けたり助け合ったりしている」と回答した児童は80%で、目標まで届かなかった。 ・縦割り掃除や地域が主催する行事に参加することで、異学年交流や地域の老人会との交流をすることができた。	B	・「道徳の授業で、自分の考えを深めたり、友達と話し合ったりしている」と回答した児童は79%で、目標を達成できなかった。自分の考えを交流するなど対話活動を取り入れながら、道徳の授業を進めていく。 ・「日頃、相手の気持ちを考えて、声を掛けたり助け合ったりしている」と回答した児童は80%だったが、全校での「思いやりの木」の取組では、友達の思いやりのある行動がたくさんカードに書かれていた。	A	
●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実		○いじめ防止について、組織的対応ができていると回答する教員85%以上 ○いじめをしていないと回答する児童85%以上	・生徒指導及び児童理解に係る共通理解を行い、全職員による児童育成の意識醸成と体制づくりを行う。 ・いじめと体罰に関するアンケートを実施すると同時に、教育相談の充実を図る。	A	・いじめや生徒指導に関する問題が発生した際、全教職員で共通理解を図り、早期発見・早期解決・再発防止に努めることができた。生徒指導及び児童理解に係る情報交換が2か月に1回できた。 ・「いじめや仲間外しをしていない」と回答した児童は95%で目標を達成することができた。	A	・いじめや生徒指導に関する問題が発生した際、全教職員で共通理解を図り、早期発見・早期解決・再発防止に努めることができた。生徒指導及び児童理解に係る情報交換が2か月に1回できた。 ・「いじめや仲間外しをしていない」と回答した児童は95%で目標を達成することができた。	A	・学校側ではアンケートを利用したり、教育相談週間を設定するなどして、いじめにきちんと向き合っていると感じる。家庭でもいじめ」とはどういった行為なのか、どういったことが「いじめ」につながるのかを考えていかなければいけないと感じる。	・生徒指導主事(古川) ・生活部
●児童生徒が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動		●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童80%以上 ●◎「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童80%以上	・日々の児童の変容を見取り、各教科等における成長を認める。 ・教育活動全体を通して、キャリア教育的な体験活動を重視し将来についての明るい見通しをもたせる。	A	・「先生方は、よいところを認めたり、褒めたりしてくれる」と回答した児童は90%で目標を達成することができた。全職員で児童を見取り、声掛けができた。 ・各学年、キャリアパスポートを活用している。「夢や目標をもっている」と回答した児童は90%で、目標を達成することができた。	A	・「先生方は、よいところを認めたり、褒めたりしてくれる」と回答した児童は90%で目標を達成することができた。児童のよさや頑張りを職員間で交流したり情報交換したりすることができた。 ・「夢や目標をもっている」と回答した児童は90%で、目標を達成することができた。	A	・子供たちの夢や将来の展望は、学校と家庭が両輪となって子供たちに教えていくものだと思う。今後も、学校や家庭で取組を進めて、切木の子供たちの将来を見守っていきたい。	・教務(濱井) ・特活部
●健康・体づくり	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)		・		・		・	・	
	●「望ましい生活習慣の形成」	●「早寝・早起き・朝ごはん」の実施率90%以上	・「早寝・早起き・朝ごはん」カードによる取組を行い、家庭と連携して望ましい生活習慣の意識付けを行う。	B	・「早寝・早起き・朝ごはんの習慣が付いている」と回答した児童は74%で目標の90%以上に達していない。2学期は生活習慣チェックカードによる取組を行ったが、「早寝・早起き・朝ごはん」の重要性を折りに触れて指導したりすることができた。	B	・「早寝・早起き・朝ごはんの習慣が付いている」と回答した児童は74%で目標の90%以上に達していない。2学期に生活習慣チェックカードによる取組を行ったが、「早寝・早起き・朝ごはん」を継続的に行うことができなかったと考えられる。	A	・生活習慣チェックカードの取組を毎学期してもよいと感じる。この取組が始まる以前は、切木デーのチェックカードが毎学期あったので、そういう継続した取組が子供の生活改善につながると思う。	・体育主任(濱井) ・養護教諭(古藤) ・保体部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)		・		・		・	・	
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・業務内容の精選及び勤務の効率化を行う。 ・曜日毎に退勤時刻を設定し、定時退勤の取組を推進する。	A	・校務分掌に係わり、業務内容別に、「何を、いつまでに、どのようにするか」を明確に示して提案することで、業務の効率化を図った。その結果の表れとして、夏休み期間中の年休取得率が向上した。 ・毎週金曜日を定時退勤日と決め、全職員で厳守する取組を行った結果、8月までは100%の実施率であった。	A	・令和6年度は、通常の業務に加え、閉校に関わる業務があり、より一層業務の「見える化」が必要となった。職員においては、業務の見直しをもつことで何を優先すべきかが明確になり、結果的に効率化を図ることができた。 ・定時退勤日の取組は、優先順位を付けて業務を行うなど、効率化及び業務の完成度の高まりにつながった。	A	・今年度は、閉校準備や行事を多く取り入れていただき、現場は多忙だったと思う。定時退勤日の取組で効率化が図られたのはよいと思うが、教師の業務の持ち帰りなど、目に見えない時間外勤務になったのではないかと心配である。これからも、子供たちのために、心身ともに健康で教育活動に取り組んでいただきたい。	・管理職
●特別支援教育の充実	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)		・		・		・	・	
	○教員の専門性と意識の向上	○特別な配慮を要する児童への理解が向上した教員80%以上	・特別支援に関する研修会を実施し、児童を理解するために必要な資質の向上を図る。 ・校内支援委員会を行い、児童を理解すると共に対応の共通理解を図る。	A	・特別支援に関する研修や校内支援研を通して、合理的配慮を要する児童への理解が向上したと回答した教員が100%の結果となり、成果が見られた。	A	・特別支援に関する研修や校内支援研を通して、児童理解が深まったと回答した教員が100%の結果となり、目標を達成することができた。 ・支援を要する児童について、校内支援委員会を行い、共通理解を図ることができた。	A	・研修などで配慮を要する児童への理解が深まり、色々な面でよい方向へ向上が見えるのはよいことだと思う。高峰小学校も引き続き、取り組んでいってもらいたい。	・特別支援コーディネーター(徳永)
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○地域と連携した活動の充実	○閉校に向け地域と連携した行事を行う。	○育友会や地域と連携した行事での児童の満足感80%以上	・学校行事に地域の方をお招きしたり、地域との連携を意識して活動を工夫したりする取組を推進する。	A	・閉校に向かう本年、閉校準備委員会を組織し、保護者と地域住民の意見を幅広く聴聞している。特に学校を起点とした行事を開催し、切木川に所縁のある方々をお招きする取組を推進している。	A	・閉校準備委員会を立ち上げ、保護者・地域の有識者・学校職員で、閉校に関わる連携ができた。特に、地域の方から幅広くご意見を聞き、メディアを利用した広報活動を行うことで、学校と地域を結び付けることができた。	A	・今年度は、閉校に向けての行事が多くあり、地域の皆さんと一緒に連携した活動ができたと思う。子供たちが描いた行事の案内配布やポスター掲示でも、学校と地域を結び付けることができ、とても嬉しい取組だったと思う。	・管理職

5 総合評価・次年度への展望	●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ・学校評価に関り、設定した目標の達成度は、概ね良好である。これは、具体的な取組や指標を示し、教育活動を推進したことにより、職員が成果を実感できたことによると考える。児童の評価は、肯定的な回答が多かった。職員が評価を意識した活動を実践したことにより、実践の成果が児童にとっては成長として実感できたことによると考える。保護者の評価は、肯定的な回答が多かった。子供たちの姿や学校からの情報発信により、教育活動の成果を子供たちの姿に見ることができたことによると考える。 ・学校評価に関わるアンケート結果から、次の2点がうかがえる。1つ目は、「学力向上」について、日々の教育活動が児童の学習意欲向上につながり、結果的に県の学力指標を上回る力を付けることができたこと。2つ目は、「心の教育」について、学び、考え、実行できる児童の育成を目指した実践を重ねたことにより、共感的な心情をもつ児童の育成が行えたことである。 ・本年度は、閉校を迎える1年として、地域と学校を結ぶ取組を推進した。結果的に、地域の方の関心が学校に向き、今後の切木校区の児童を見守っていくとする機運につながった。本校は閉校となるが、今後も地域に住む児童と地域が密接につながり、児童にとって、人的にも物的にも教育環境が整うことを願う。
----------------	--